

平成28年3月期 業績のご報告

平成28年3月期は、連結経常利益が前期比13億円増加の855億円、親会社株主に帰属する当期純利益が前期比15億円減少の554億円となりました。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に計上した負ののれん発生益等70億円の影響を除いた場合、前期比54億円の増加、また、通期の業績として過去最高益となります。

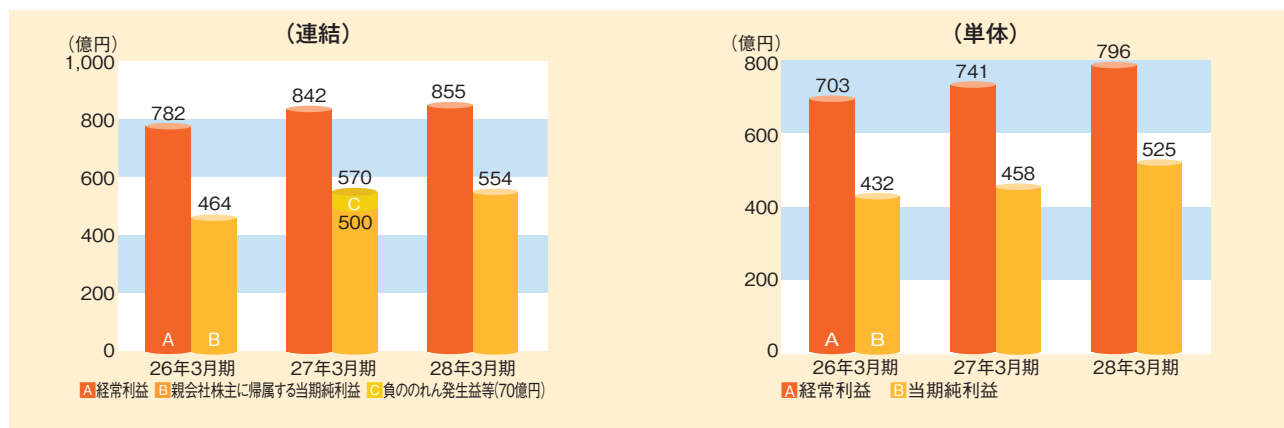
総自己資本比率は、連結で13.79%、単体で13.26%となりました。

なお、ROEは6.49%、OHRは55.06%となりました。

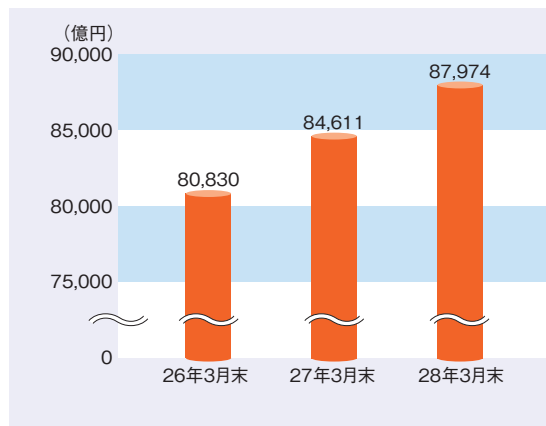
貸出金は、前期末比3,362億円増加の8兆7,974億円となりました。そのうち、事業者向け貸出が前期末比2,038億円増加、住宅ローンが前期末比1,241億円増加しました。

預金は、個人預金の増加などにより、前期末比4,068億円増加し11兆1,402億円となりました。

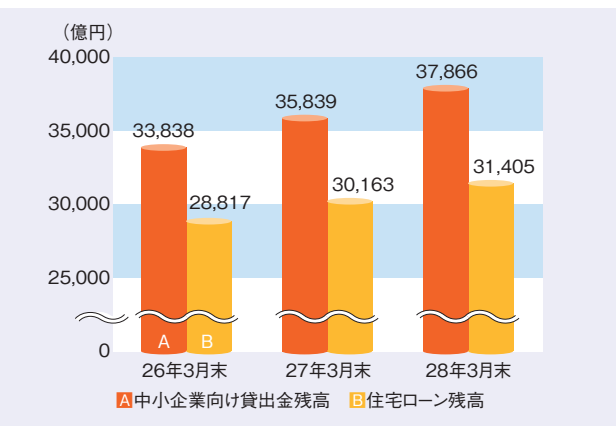
■ 損益の状況



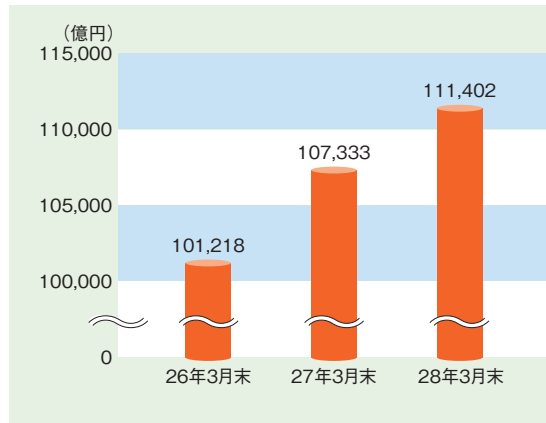
■ 貸出金の状況



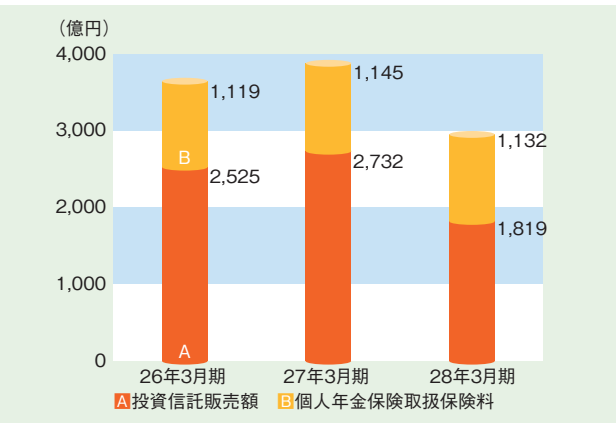
■ 中小企業向け貸出金・住宅ローンの状況



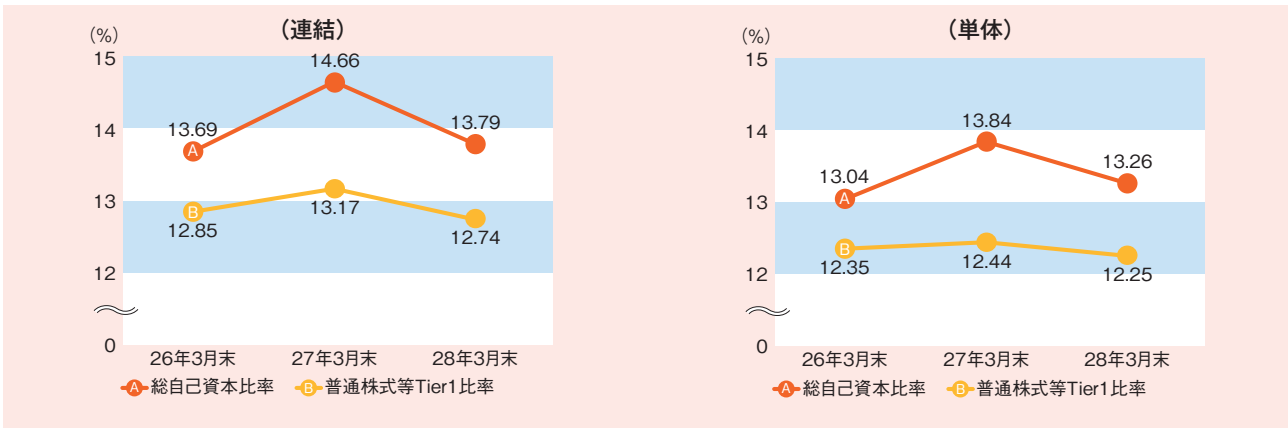
■ 預金の状況



■ 投資型金融商品の状況



■自己資本比率の状況



用語解説

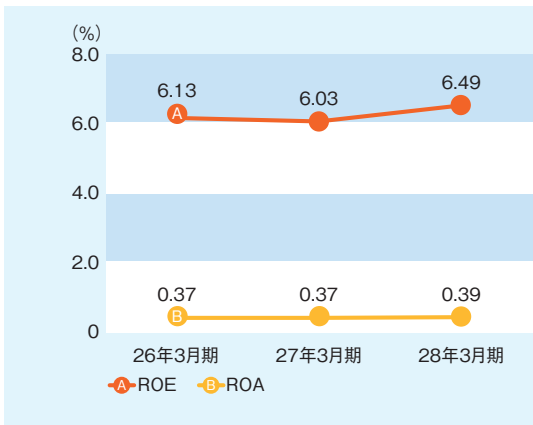
バーゼルⅢ

リーマンショック時に発生した世界的な金融危機を教訓に、金融機関の損失吸収力の強化や過度なリスクテイクの抑制を図り、金融機関の健全性を維持するために導入された新たな規制の枠組みです。金融機関に対し、投資や融資などの損失を被る恐れのある「リスク資産」に対して、自己資本を一定割合以上持つように義務づけています。

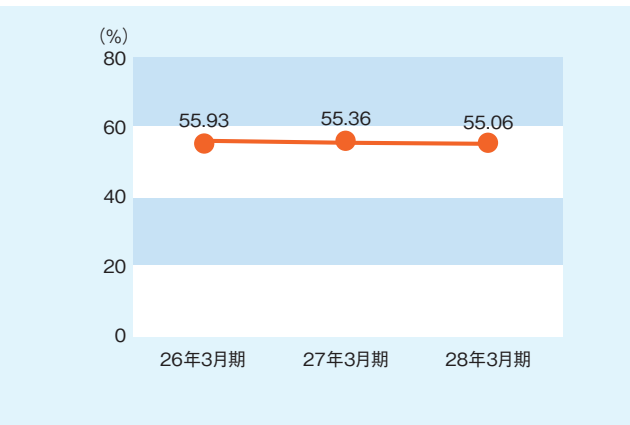
普通株式等Tier1比率

中核的自己資本(Tier1資本)のうち、より資本としての質が高く、損失吸収力が高いとされる普通株式や内部留保などによって構成される部分を普通株式等Tier1資本といい、バーゼルⅢでは、総自己資本比率やTier1比率だけでなく、普通株式等Tier1比率についても最低水準が定められています。

■ROE、ROA



■OHR



用語解説

ROE、ROA

ROEとは「当期純利益」を「期首純資産の部と期末純資産の部合計÷2」で除したもので、資本の効率性を示すものです。また、ROAとは「当期純利益」を「総資産の平均残高」で除したもので、資産の運用効率を示すものです。

OHR(オーバー・ヘッド・レシオ)

「経費」を「業務粗利益(一般事業会社では売上高総利益に相当)」で除したもので、数値が低いほど高い効率性・生産性を有することを示しています。